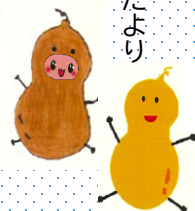


かわら版

集落支援員だより



「めざせ！生涯現役」シリーズ④

「菊づくり最高齢の九十歳で幼なじみ。あと一年、あと一年と続けていくことが元気の源なんです」

岩代地域で仕事や趣味、ボランティア等に携わり、元気に暮らしている高齢の方を紹介。第四回は、毎年、二本松の菊人形に出展している石井繁男さん、三本杉英吉さんを紹介します。



石井繁男さん：90歳。農業を営む傍ら菊づくり。80歳まで冬場は酒蔵にも勤務していました。今年は飾り菊と競技花を合わせて約50鉢を出展する予定です。

「菊づくりの伝統を次世代へつないでいきたい。希望する人に苗や教材を提供しています」
杉内在住 石井繁男さん

私が祖父の後を継いで菊づくりを始めたのが約二十年前です。その頃は小浜だけで二十人以上のメンバーがいて文化祭に出展していました。そして約十一年前に二本松菊花愛好会の会員となり、以降、菊人形展に出展しています。菊づくりは「水かけ十年」という言葉があるように水やりが難しく、天候にも左右されます。

「朝起きて妻の顔より菊の顔」以前、私が作って子どもたちに笑われた川柳ですが、菊づくりはとも奥が深く、手間がかかると言われていきます。三本立て、七本立て、懸崖（けんがい）をはじめ、様々な型があります。でも今まで続けてこられたのは、菊を育てる工程が楽しいからです。

菊づくりの本や教材が研究の跡がうかがえます。



▲菊人形会場を飾る菊も毎年育てて出展しています。

自分のイメージ通りに花が咲いてくれたときも嬉しいですし、品評会で色々な賞や副賞をいただいたときもとても感激します。できれば二本松の伝統ある菊づくりをより若い世代に伝えたいですね。周りの人には「植えておくと花が咲くから、植えておがせ」と言いつて苗を分けています。菊づくりに興味のある人がいたら、連絡いただけると嬉しいです。（連絡先 ☎55・271）

「今年は猛暑で思うように菊が育ちませんでした。脳活のもりで続けていきたいです」
供中内在住 三本杉英吉さん



三本杉英吉さん：90歳。大工仕事と農業をしながら菊づくり。今年の出展は、菊の3本立てを3鉢の予定です。

同級生の石井君に誘われて菊をつくり始めたのが十数年前で、二本松の菊人形にも毎年出展しています。仕事をする傍ら趣味として始めましたが、菊は子どものように手がかるので大変。自分でも暑さに弱く、今年は猛暑の中、水やりに苦労しました。

第68回 二本松の菊人形のご案内

今年のテーマは「紫式部」。紅葉に彩られた会場を菊の花が艶やかに埋め尽くし、古典的美の世界が広がります！

- ★日時：10月10日（木）～11月20日（水）9：00～16：00
- ★会場：霞ヶ城公園（史跡二本松城跡）
- ★入場料：一般大人900円 障がい者700円 中学生以下無料
期間中に何回も入場できるお得なシーズンパスポート
（大人1,500円、障がい者1,000円）も販売中（10月31日まで）
- ★駐車場：普通車400台、大型バス15台（無料）
- ➡「広報にほんまつ10月号」の巻末に無料招待券（2枚）が付いていますので、切り取ってご利用ください。

問い合わせ：二本松菊栄会事務所（観光課内）
☎55-5122 FAX22-8533

菊づくりだけでなく、ナスも出荷しています。去年は苗を二百本植えました。今年は体力の衰えを感じて半分になりました。毎日朝五時に起きて、ナスを収穫しています。菊は花が咲いたときと品評会で受賞したとき、とても嬉しいので励みになっています。以前は大勢いた岩代の会員も、現在は六人。岩代だけでなく二本松菊花愛好会の会員四十名の中にも石井君と自分が最高齢になってしまいました（笑）。やれるうちは続けていきたいです。



▲花芽を摘む際、どれを残すかが難しい選択。

杉沢に南国バナナ！？

「杉沢地区に高さ7メートルの巨大なバナナの木が出現！」という話を聞き、噂のお宅を訪問しました。

◀「ビニールハウスの2倍もの高さのバナナの木は迫力満点です！
▼左：自宅の敷地内には珍しい植物や花も栽培
▼右：バナナの実がたわわに実った状態。他にパイナップル栽培にも挑戦中。



杉沢の安斎さんの庭には、大きなゆずの木があります。「ゆずの木が育つのだから他の果実も可能かも？」と安斎さんは、ご近所から譲られたバナナの苗をビニールハウスに植えました。2シーズンの越冬を経て3年目の今年、バナナが実をつきました。「寒さが増すこれから勝負」とチャレンジ精神旺盛な安斎さん。今後の成長が楽しみです。

「地域おこし協力隊としての残り1年半はできるだけ大勢の人と会って話をする機会をもちたいので、気軽に声をかけていただくと嬉しいです！よろしくお願ひいたします」

★そば打ち教室開催中★

11月29日(金)・30日(土)

問い合わせ：「さくらの郷」佐藤へ

☎0243-68-4770

※予約制・限定5組。7人前のそばで2人1組、家族での参加もOK。



▲佐藤はるかさん。「10月27日は収穫祭、11月16日、17日は新そば祭りを開催。十割そばはもちろん美味しいものを揃えてお待ちしています」

昨年六月、地域おこし協力隊として道の駅「さくらの郷」に着任した佐藤はるかさんが今年六月、約一年の練習期間を経てそば打ち職人としてデビューしました。「そば打ちは奥が深いですね。最初の水回しが大事ですが、天候や湿度などで生地の状態が微妙に変化します。一年以上、毎日そばを打つてみて改めてわかることがあり、新たな目標が生まれました」佐藤さんは、岩代高原そばの美味しさや道の駅「さくらの郷」の魅力を発信するために毎月「さくらの郷」を発行しています。播種から花の咲く頃、刈り取りの様子などが紹介され、大事に育てられ、そばが提供されていることが伝わってきます。「読んでくださる方は、読んでくださる手間はかけてつくります」

▲「さくらの郷」で週に1、2回そばを打っています。



はるか昔、福島は日本の中心だった？！

市民講座「ふくしまの縄文時代」

～新型炉「複式炉」をめぐる歴史～

<岩代の歴史シリーズ>で「両属の将 石川弾正の生涯」を執筆した日下部善己氏が、ふくしまの縄文時代の繁栄と暮らし、謎などを解説。自治会の原型となる集落の在り方にもふれますので、興味のある方はぜひご参加ください。

日時：11月6日(水)10時～16時

場所：岩代公民館(大会議室)

講師：日下部善己氏

受講料：1,300円(昼食代含む・当日納入)

※午前中は座学、午後はバスで縄文遺跡の資料館や遺蹟をめぐる予定です。

※詳細は岩代公民館へ☎55-2260

「さくらの郷」は食堂のテーブルにも配置しています。▼そば打ち教室には他県からの参加者も来ています。

「さくらの郷」は、また食べにきまます。女性そば打ちというのにも珍しく、「食堂でガラス越しに打っている」と「頑張りすぎ」と声をかけられることもありました。佐藤さん。「次の開催は？」というリピーターの方もいて励まされるそうです。今後の抱負を尋ねると「今後はそばにちなんでワークショップを開催し、色んな皆さんと交流できたら嬉しいです」と話してくれました。



岩代の歴史シリーズ

一枚の写真 その②

岩代小浜の歴史と文化を護る会 副会長 大内英克

会津宮森家と小浜の関係は小浜城を築城した大内氏によるものである。

五代定綱は、伊達政宗の侵攻を受け、会津領主輩名氏を頼り会津に退却した。

しかし、頼りの輩名氏に冷遇され、不満を持っていたことから、弟片平親綱と共に伊達家に帰参した。

定綱の弟、四郎兵衛(後に宮森四郎兵衛と名乗る)は会津に残り、その末裔が「花春酒造(現在はラーメンで有名な(株)幸楽苑が経営)」を営み、その子孫が「栄川酒造」「宮泉銘醸」として独立し、宮森三家となった。

その縁者らが「宮森顕彰会」を設立し、五年に一度、小浜城において「御先祖祭」を行っているのである。

小浜城は、中国地方の大内氏と同族で若狭小浜に居住していた大内氏が、大内晴継の代に四本松(塩松)に移り、文明三年(一四七一)晴継の子宗政が山城を築城し小浜城と名付けたものの、「小浜」の名の始まりである。

当時の小浜は宮森と呼ばれていた。明治九年(一八七六)六月十一日、宮森村を小浜村と改称し、初めて地名としての「小浜」が登場するのである。

※「政宗を翻弄させた男 前沢領主大内定綱」(宮田正勝書桃寺住職著)によると、宮城県登米郡東和町錦織の移川家の家系図に大内家の家系図があり、それによれば、大内氏は百済の齊明王第三王子の琳聖太子が周防の佐渡郡多々良浜(防府市)に住み、多々良姓を名乗り、その子孫が長門の吉敷郡大内(山口市)に居住し、大内氏を名乗ったといわれている。小浜の大内氏は室町時代、奥州管領の吉良氏を牽制するため、石橋棟義が奥州総奉行に命じられて奥州に下る一行に従って来たといわれている。

※2024年に行くべき52か所に選ばれた山口市の瑠璃光寺五重塔(国宝)を建築し、「西の京都」と言われる山口市の礎を築いた名族である。